

# 令和7年 第3回定例会

## いっぱんしつもん

9月9日に、5名の議員から町行政に対する一般質問がありましたので、要旨をお知らせします。

### 滝本町長の今後の具体的な政策・施策について

**Q** 選挙用パンフレットにおいて、「妹背牛町の、将来を見据え持続可能な妹背牛町」のため6つの柱を掲げられていたが、具体的な政策・施策や町長としてどのような構想をお持ちなのか伺う。

**A** これまで職員として、そして副町長として取り組んできた第9次総合振興計画が基本となっており、町長という立場になっても自分がこれまで関わってきた計画を大きく変更する考えはない。



渡辺 倫代 議員

#### 渡辺議員

滝本町長の選挙用パンフレット、討議資料において、「妹背牛町の、将来を見据え持続可能な妹背牛町」のため6つの柱を掲げられ、その柱にそれぞれ3つ、合わせて18の施策の方向性が示されていたが、具体的な政策・施策や町長としてどのような構想をお持ちなのか伺う。



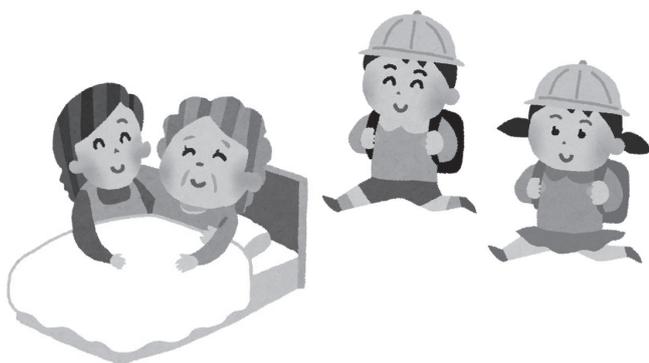
#### 町長

6つの柱についてはこれまで職員として、そして副町長として取り組んできた第9次総合振興計画が基本となっており、町長という立場



になっても自分がこれまで関わってきた計画を大きく変更する考えはない。ただし、今後のまちづくりに効果的あるいは必要不可欠であるといった事業が生じた場合は、財源確保など慎重に判断の上、新たに取り組むことも考えている。

安心、福祉、医療の充実、高齢者福祉の関係については補助事業が前提となるが、老人保健施設りぶれに転倒事故防止を目的にセンサー付ベッドを購入する。また、子育て支援としてこども誰でも通園制度を令和8年度から実施する。次に、教育関係は、小中一貫教育の導入に向けて必要な人材の確保など、その準備に努めていく。また、安心、安全なまちづくりという面で



は、防災拠点の整備として役場庁舎改修のほか、りぶれ周辺の福祉施設におけるマイクログリッドの構築で災害時のレジリエンスを強化するとともに、カーボンニュートラルの推進に努めていく。持続可能な財政運営のうち、財源確保という面では、交付税措置の面でも有利な緊急防災・減災事業債及び緊急自然災害防止対策事業債が令和7年度までの期限措置であることから、オール空知、オール北海道を含め、その延長要請に努めていきたい。

## 妹背牛温泉へ。ペルリニューアル後の経営状況について

**Q** リニューアルして1年半経つが、お客様の動向の変化はあったのか、また新たな反省点と課題は。

**A** リニューアルから一定期間が経過し減少したものの、町内の利用者は増加している。サウナブームを追い風にしてイベントや情報発信を行いながら入館者を増やしていきたい。



佐々木 和夫 議員

### 佐々木議員

温泉についてはリニューアルして1年半になり、今年度の事業計画では入館者を14万5,000人と掲げている。中身として、町内住民の方が2万5,000人、町外の方が12万人と目標を掲げ、日々スタッフの皆様方が努力されていることと思う。

そこで、現在までの経営状況、お客様のペル温泉に対する動向の変化はあったのか、また、新たな反省点と課題を

伺う。

### 企画振興課長

令和6年度の総売上げについては1億7,400万円で、決算については7千円の黒字となっております。町からの助成金の額については6,300万円となっております。

令和7年度7月までの収支は総売上げが5,500万円程度で、約110万円程度の黒字となっております。町からの入湯税の繰入れが1,100万円程度となっております。次に、入館者数の状況について、令和6年度は入館者数が約14万人、うち町民が2万1,000人、町外者が11万9,000人と町内の割合は約

15・4%、町外者が84・6%となっております。1日の平均入館者数は、約413名となっている。令和7年度については、7月分までで、入館者数については4万7,500人、そのうち町民が9,000人、町外者が3万8,500人で、町内の割合が19・1%、町外者の割合が80・9%となっております。1日の平均入館者数については、約390名となっている。

令和6年度と令和7年度の入館者数の比較については、令和7年度は6,900人ほど減少している。また、町外利用者が約8,000人減少している。リニューアルから



一定期間が経過し、減少したものと考えている。町内の利用者は約1,100人増加しており、こちらについては本



年度から高齢者入館料助成事業の回数を50回から100回に増やしたこと、町民全員に3枚の優待券をプッシュ型で配付したことで町内の利用者が増加したものと考えている。

温泉の将来については、町民の憩いの場でもあると同時に、地域外から人を呼び込む観光資源としての役割もあることから、現在サウナを推した施設となっているため、サウナブームを追い風にしてイベントや情報発信を行いながら入館者を増やしていきたいと考えている。

## 地域おこし協力隊（委託型）の活動について

**Q** 地域おこし協力隊の委託型について、任期満了後の定住に向けて、町として具体的にどのようなサポートをしているのか

**A** 毎月面談を行っており、それぞれの飲食店起業に向かって進捗状況の確認や相談を受けながらアドバイスなどを行っている。定住促進支援事業も併用しながら支援していく。

### 佐々木議員

地域おこし協力隊の委託型について、今年6

月に着任された地域おこし委託型の協力隊員の方々に続き、

この8月に沖縄から新たに委託型の協力隊の方が親子で妹背牛町に来られた。

この方々の活動計画や3年間の任期満了までのスケジュールが役場のほうに提出されているかと思う。両者ともに任期満了後の定住に向けて、町として具体的にどのようなサポートをしていくのか何う。



協力隊員竹島さんのキッチンカー

### 企画振興課長

協力隊員の活

動報告については、設置要綱に基づき地域活動に従事した日々の活動日報を作成いただき、翌月10日までに活動日報及び月報を提出してもらっており、その活動内容を精査し、適正と認められた場合に活動の対価として委託料を支払う

ものとしている。各隊員とは毎月面談を行っており、それぞれの飲食店起業というミッションに向かって進捗状況の確認や相談を受けながらアドバイスなどを行っている。

2組とも任期3年以内での起業を目指しており、任期満了後も定住し、地域内で飲食店を継続して営業していけるように定住促進支援事業も併用しながら支援していく。

## 妹背牛町における観光協会の設立について

**Q** イベントの維持、拡大をするために観光協会を設立する可能性について考えを伺う。

**A** 設立する場合、メリットの検証や関係機関との協議も必要と考えるが、当分の間は関係機関、そして町民と連携しながら観光の振興に努めていく。



鈴木 正彦 議員

### 鈴木議員

人口減少対策とし

ては定住人口を増やすことが第一であると考え、同時に交流人口の増加も必要と考える。町民まつりが町内最大規模の祭りとして位置づけられており、新たなイベントとして



スノフェスも開催されてきたが、運営費の減少やスタッフ

の高齢化など多くの課題を生じており、スノフェスについては現在開催されていない。

そこで、イベントの維持、拡大をするためにも令和4年第2回定例会で観光協会について質問させていただいたが、行政主導ではなく民間の盛り上がりが必要との答弁があった、数年が経過し、状況も随分変化したと思うが、町長の考えを伺う。

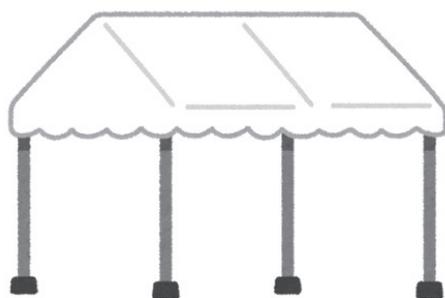
また、現在イベントで使用しているテントがかなり老朽化しているが、安全性も含めて更新等の考えを伺う。

### 企画振興課長

観光協会とは、

自治体と営利を目的とする民間との中間的な存在として公益的な観光事業を推進する目的で設立されているものであり、町が立ち上げを推進するものではなく、組織の構成員となり、支援する立場にあると考えている。

観光協会の設立には目的、財源、人材の3つが不可欠で、特に維持のための財源確保が最大の課題となる。常設の観光協会を立ち上げるよりもイ



ベント単位でプロジェクトチームや実行委員会で動く現在のスタイルのほうが効率的で現実的と考えている。まずは、商工会と町で連携をして議論を深めていくことが重要と考えている。

テントについて、本町では17張所有しており、破損していないので、引き続き使用していく。社会福祉協議会で所有しているテントは8張りあり、23年が経過している。破損しているものや紐が切れているものがあり、利用できなくなるまで利用し、廃棄する予定。テントの数は充分足りており、追加購入はしない予定。再度テントを点検し、破損しているテントを確認した

いと考えており、今後数が足りなくなれば追加で購入を検討する。

**町長** 現状では、町、企画振興課や商工会あるいはJ Aなどが観光協会の役割を担っているものと考えている。観光

協会設立に当たっては、そのメリットの検証など関係機関との協議も必要と考えるが、当分の間はこれまでと同様、町をはじめ関係機関、そして町民と連携しながら観光の振興に努めていく。

## 町内イベントの今後と6次産業化の推進について

**Q** 農協青年部、商工青年部の意見交換の場を作ることや、両組織の協力体制構築や事業連携をサポートし地場産品の活用やPRを行っていくことを考えているか伺う。

**A** 両青年部が連携できるような、意見交換の機会の創設を含めて町としてどのような支援ができるかを今後検討していきたい。



佐藤 主税 議員

**佐藤議員** 令和2年から令和7年7月現在にかけて農協青

年部は36人から25人に減少。商工会青年部は16人から11人に減少しており、各行事への協力も年々厳しくなってきたりなどの課題を抱えている。

①農協、商工青年部が町の行事に関することや産業振興について意見交換する機会をつ

くること、また両組織の協力体制構築から事業連携、さらには地場産品の活用やPRを行っていくことを考えているか伺う。また将来的な6次産業化への取組について考えているか伺う。

②現在近隣市町においても担い手不足によるイベントの終了や縮小、見直しなどが検討されている。今後の妹背牛町におけるイベントの方向性について考えを伺う。



③ふるさと納税の返礼品について、ジングスカンがあったかと思うがどのような経緯で削除になったのか。また、返礼品の決定はどのように行われるのか。農業者や商工業者から意見を聞いて取り入れた

ものはあるか。また今後農協青年部や、商工青年部など各団体等から意見を求めながら、返礼品の選定を行っていく考えはあるか。

### 企画振興課長

①農業後継者が生産したものを商工業後継者が加工、販売などにつなげるなど、互いに補完し合い、地域経済の強化や新しい商品サービス、新たな産業の創出により雇用の場の確保や移住定住、地域のブランド力向上につなげていくことは理想的である。まずは地域の若手や後継者の皆さんの声をしっかりと聞きながら、そのような協力の形が現実的で有効かを検討していきたい。

②商工青年部や農協青年部をはじめとする地域の方々には、これまでも祭りの運営を担い、地域を盛り上げていただいている。本町としては現状の規模を基本的に維持しながら、地域力をさらに高めていくことを基本姿勢としており、その上で、担い手不足に対応するために新しい手法を検討していきたい。現状の規模を維持していくことが難しくなっ



た場合には、一部プログラムを工夫し、時間短縮などで簡素化することやイベントの複合開催など無理のない持続可能な形で継承していきたいと考えている。

③ふるさと納税の基準が厳格化され、原材料が妹背牛町を含む道内産でなければならなくなつたため。本町の二五八漬けのもと、米子ちゃんを使用しているが、ジングスカンの加工地が本町ではないため返礼品として認められなくなった。返礼品のラインナップについてはもちろん町ものを重点的に扱うなど、返礼品の要件に当てはまるものは広く活用していきたい。

### 農政課長

①農業者と商工業者が連携しての6次産業化の動きについては、町が主導して推進するに至っていないのが現状である。ただし、これまでも地元農産物を活用した特産品の製造、販売は地元農業者の女性メンバーを中心に行われている。特産品については、農業者が主体となっているもの、町が主体となっているもの様々であるが、今後ともそれぞれ自発的に取り組めるような進め方がよいのか、各組織が連携した取組がよいのか、さらには支援の在り方についても検討していく。

### 町長

6次産業化については、その加工品への付加価値だけではなく、使用する地元の農産物にも付加価値がつくといった相乗効果も期待でき、農産物自体のPRにもつながるものと考えられる。農協青年部、商工青年部の連携が図られ、地元農産物を活用した商品開発に取り組めるよう意見交換の機会の創設を含めて、町としてどのような支援ができるかを今後検討していきたい。

## 学校体育館へのエアコン設置について

**Q** 近年の夏の暑さのため体育や部活動で利用を控える学校が増えているなど、教育活動にも障害が生じている。この点についてどうお考えか伺う。

**A** エアコン設置については必要性を理解しているが、役場庁舎など公共施設へのエアコン設置や改修工事などを計画中であることから、今後財政状況と国からの支援を注視し検討を進めていく。



田中 春夫 議員

### 田中議員

地球温暖化の影響から、北海道でも記録的な高温になるなど暑さによるリスクが高まっており、7月にはカムチャツカ半島付近での地震による津波からの避難中に熱中症の疑いで搬送されるなどの例が起きている。文科省は、子供の学習と生活の場であるとともに、災害時は避難所として活用される学校施設



設・設備の避難所機能を強化するため2024年度補正予算で空調設備臨時交付金779億円を創設した。これについてどのようなお考えか伺う。また、空調が設置されていない学校体育館は、近年の夏の危険な暑さのため体育

や部活動で利用を控える学校が増えているなど、教育活動にも障害が生じている。この点についてどうお考えか伺う

### 総務課長

近年の北海道内における気温は過去では考えられないほど上昇しており、住民生活にも大きな影響を及ぼしている。当町においては緊急性を鑑みて、昨年、ほかの施設に先駆けて小中学校校舎の各教室及び職員室にエアコンを整備した。避難所に指定

されている小中学校体育館、総合体育館については、暑さ対策が十分とは言えない状況にある。エアコン設置については必要性を理解しているが、現在役場庁舎など公共施設へのエアコン設置や改修工事などを計画中であることから、今後財政状況と国からの支援を注視し検討を進めていく。また、小中学校は統合を予定しているのでそれも含めて総合的に判断したい。

## 生活保護世帯のエアコン設置に対する支援について

**Q** 猛暑によりエアコンは、生活必需品と考えられているようになってきているが、生活保護世帯がエアコンを購入するときの支援制度について伺う。

**A** 生活保護世帯へのエアコン購入に係る町独自の助成制度は現状無い。

### 田中議員

妹背牛町のエアコン工事の支援の状況について伺う。猛暑によりエアコンは、生活必需品と考えられているようになっている。厚生労働

省も熱中症対策のためエアコン設置に関する事業を推奨しており、歌志内市では、65歳以上の高齢者世帯へのエアコンの購入設置費用補助の制度



**健康福祉課長** 生活保護世帯へのエアコン購入に係る町独自の助成制度は現状無い。エアコンを含め、日常生活に必要な生活用品については保護費のやりくりによって計画的に購入していただくことを原則としつつ、特別な事情がある場合には一時扶助の基準内においてエアコン購入費用の支給が可能としている。

がある。静岡県焼津市では、住民税非課税世帯の高齢者や障がい者向けに購入費の半額上限5万円の補助が行われている。生活保護世帯がエアコンを購入するときの支援制度について伺う。

議会だよりに対する、ご意見、ご要望は

## 議会事務局へ

TEL 0164-34-8586 (直通)

FAX 0164-34-8587 (直通)

### ◎12月定例会のお知らせ◎

会 期 12月16日～17日

一般質問 12月16日

9時からの予定です

場 所 役場3F 議場

## 議会は公開されています

定例会は3月、6月、9月、12月の年4回、臨時会は必要の都度開かれます。

傍聴の方法は2つ

1. 役場3階議場の傍聴席で
2. 役場1階のモニター中継でお気軽に傍聴してください



## スマホで パソコンで 気軽に議会を傍聴

▶ 妹背牛町議会はYouTubeで配信しています

妹背牛町議会ではYouTubeにて定例会での各議員の一般質問を本会議終了後に公開しています。お気軽にご視聴ください。



妹背牛町議会 YouTube [検索](#)